

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年 4月 19日

事業所名 リスベクト

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 |
|-------------|--|--|----|---------------|-----|---|------------------------------|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | | 公共の体育館やグラウンドを利用し、活動できる環境を確保している | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | | | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | | | ○ | | 今後必要性が出てくる場合には検討していきます |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している | ○ | | | 職員会議や朝礼等で職員全員で検討し、実践、振り返り、評価を実施している | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | | | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | | | ホームページで公開し、各ご家庭にも案内しています |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | | ○ | | 今後機会があれば外部評価を行います |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | | 一部の職員に備らないよう研修参加している | |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | 送迎時に保護者から課題やニーズを聞き取り、社内に持ち帰り検討・分析し計画を作成している | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | | | |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | | 週ごとに活動リーダーを設定しチームで立案・活動できるようにしている | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | | 定期的な見直しをし工夫している | |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | | | |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | 日々の活動に必ず1つは全員参加の集団活動の機会を取り入れている | |
| 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | | | | |

| | | | | | | |
|----|---|---|---|--|----------------------------------|---|
| 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | | | 支援終了後の振り返りを行い、職員全員が共有できるように、話し合いをしている |
| 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | | 記録チェックの職員を配置し、記入漏れ・不備がないかを点検している | |
| 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | | | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている | ○ | | | | |
| 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | | | |
| 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | | | |
| 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | ○ | | | 現在は医療的ケアの必要児童の受け入れ体制ができていないが、医療的ケアについての知識習得の為に講習会等に参加していきます |
| 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | | | |
| 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | | | |
| 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | | | |
| 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | | | | 休日イベント実施時に、交流する機会をつくっている |
| 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | ○ | | | | |
| 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | | | |
| 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | | ○ | | | 講習受講などで知識習得に努め支援を行います |

関係機関や保護者との連携

| | | | | | | | |
|------------|----|--|---|---|---|---|--|
| 保護者への説明責任等 | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | | | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | | | ○ | | 父母の会や保護者同士の連携を望む要望があれば支援をしていく予定にしています(現在は要望がありません) |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | | | |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | | ホームページ上に活動の様子を掲載している 毎月1回活動状況の分かる会報を発行している | |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | | | | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | | | 夏祭り開催時など、地域の方々にも来て頂いたりして |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | | | |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | | | 避難訓練等実施時には、会報にも記載し、報告していきます |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | | 一部の職員に備らないように研修参加している | 研修参加後には社内で講習会を実施し、職員全員に情報共有できるようにする |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | | | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | | ○ | | | 現在は食物アレルギーのある利用児童がおらず、今後必要時には対応していきます |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | | | 翌日の朝礼でヒヤリハット事例や、活動で気づいた安全面について話し合いを実施している |